

1人1台端末を活かしたICTの効果的な活用

～魅力ある学校づくりのために～

新ひだか町立静内小学校 学級数11 (校長 玉手 広昭)

I 実践テーマの趣旨

本校では、令和2年12月に児童用の1人1台端末が導入され、令和2年度末から活用方法を模索し、教師と児童がICT端末に慣れ、学習に組織的に活用できるよう取り組んできた。令和3年度からは家庭学習での積極的活用と、オンライン授業に対応するために家庭への端末の持ち帰りを行い、併せて授業における様々な場面で端末を活用し、効果的な学習と効率的な支援を目指した。

II 実践の概要

1 端末持ち帰りの推進

週末と夏季休業中は端末を家庭に持ち帰り、家庭学習で活用した。また、新ひだか町教育委員会が設定した「セキュリティ対策」、「タブレット活用のルール」を、保護者へ周知し、トラブル等の防止に努めた。



【学習ソフトに取り組む児童】

2 「学習支援ソフト」の積極的な活用

「学習支援ソフト」を活用し、Web上で自作プリントやフリー テキスト等の課題を児童に提示し、回収、採点・確認し、児童に送り返すことで、家庭学習や通常の授業で、個別の支援を行った。家庭学習をWeb上で行うことで、課題の進捗や採点状況など、児童の学習状況の把握が容易になった。また、既習事項の定着が図られているかなど、授業改善の材料としても役立てた。



【低学年の活動の様子】

3 夏季休業期間中のオンライン学級会の実施

臨時休業等で、オンライン授業に備える試みとして、夏季休業中の児童の様子を把握するため、オンライン学級会を実施した。各学級が工夫を凝らし、児童の様子を把握するとともに、各家庭の接続状態について、確認することができた。

4 行事（学習発表会等）に向けた活用

コロナ禍で、鍵盤ハーモニカの取り扱いに配慮する必要があったため、ICT端末を活用したアプリを用いて、運指や演奏の練習を行った。実際の鍵盤をタッチする感覚とは異なるという課題はあるが、音の出ない鍵盤を押すことに比べ、子どもたちは意欲的に取り組むことができていた。

5 その他（職員による活用）

(1) 校内研究授業の遠隔視聴

授業の様子をライブ配信し、別室で参観した。今後の授業参観方法の一つとして活用することができる。

(2) ICT機器を使った研修

校内研修において、教師用のICT端末を活用し、バズセッション方式で協議を進めることができた。

(3) Webによる教育活動等におけるアンケートの実施

スマートフォンでも回答できるため回収率の向上が期待でき、自動集計による業務改善にもつながると考える。

(4) 日報の活用

職員打ち合わせは、Web上で「日報」を全職員が閲覧する方式とし、確実かつ効率的に連絡・確認を行った。

III 成果と課題 (○成果 ●課題)

○ ICT端末の家庭への持ち帰りを推進することで、教師も児童も端末に適応し、効率的に活用することができた。また、「働き方改革」の観点から、業務の効率化や簡素化につながった。

● 児童・保護者及び教職員にとって、魅力ある学校づくりを進めていく上で、ICT端末は使うことが目的ではなく、何のためにどう使うかという視点が大切であると考えることから、今も変わらない教育の本質的な部分と、ICT端末を活用した先進的な部分を整理し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指して取り組む必要がある。